

山本さん(福井大附 義務4年) 最優秀

小学生プログラミング 本社で県大会



安全運転装置を制作

独自に制作したプログラムのアイデアや技術を競う「全国選抜小学生プログラミング大会」(福井新聞社、全国新聞社事業協議会主催、富士通Japan福井支社、げんでんふれあい福井財団協賛)のファイナルステージが21日、福井新聞社風の森ホールで開かれた。審査の結果、最優秀賞には、ゲーム感覚で車の速度を保てる山本佳那さん(福井大附属義務教育学校4年)の「安全運転装置 川崎君」が選ばれた。(後藤奈央)

3月、全国出場へ

科学技術やプログラミングに興味を持ち、効果的に活用する力を養うことを目的に昨年から開いている。

最優秀賞に選ばれ表彰される山本さん(右)は21日、福井新聞社・風の森ホール

対象は小学4～6年で、テーマは「みんなの暮らし」。日々の生活を便利に楽しくする作品を募った。

10人から応募があり、同日のファイナルステージには9人が参加。持ち時間4分で、作品をつくるきっかりや特徴、苦労した点などを発表し、実際に作品を動かした。3人の審査員が「発想力」「表現力」「技術力」の観点から審査した。

山本さんは、通勤時間が長くて退屈だという大人の意見をヒントに、スピードやカーブの曲がり方から振動を感知し、得点を競えるような装置を制作。「自信はあったが、ほかの作品を見て焦っていた。選ばれてうれしい」と話していた。

ほかに、財布や鍵などにセンサーをあらかじめつけておいて、見つけられないときに携帯と連動させて決まった音が鳴るようにした仕組みや、魚の餌を自動的に与えるなどの作品があった。

山本さんは来年3月、オンラインで開かれる全国大会に出場する。